

河川における外来魚の生態

福島県内水面水産試験場 調査部
福島県内水面水産試験場事業報告書

1 部門名

水産業－内水面(増養殖)－内水面漁業
分類コード 19-08-22650000

2 担当者

佐久間 徹

3 要旨

コクチバス、オオクチバス、ブルーギル(以下「外来魚」)はその繁殖力の強さから、湖沼だけでなく河川においても個体数を増加させ、在来の魚類等を捕食し、漁業に悪影響を与えている。しかし、河川内での生態的知見は全国的に少なく、また、流れがあるため、湖沼のようにさし網を容易に設置することができず、外来魚の捕獲が困難である。

そこで、河川における駆除技術開発のため、繁殖生態を中心とした季節別の生態を調査した。

- (1) 河川における繁殖期は、コクチバス、オオクチバスが5月中旬頃から1ヵ月半ほどで、ブルーギルは2種より約1ヵ月遅れであり、湖沼と同様であった。
- (2) 繁殖場所はテトラや護床ブロックの脇などで、流速が毎秒6cm以下の流れが緩やかな場所を選択して産卵床を形成していた。
産卵床形成水深は河川水の濁りによって異なり、濁度が低い場合には水深1m前後で湖沼と同様であるが、濁度が高い場合には0.2~0.6m程度の浅い場所に産卵床を形成していた。
- (3) 繁殖期以降の高水温期には広範囲に生息し、特にコクチバスは流れが急な流芯にも入り、活発に摂餌していた。
- (4) 低水温期には活動が鈍り、深い場所に身を潜めていた。

4 その他の資料等